

富雄地区子ども安全対策協議会（奈良県）

安達と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

隣におりますのは、富雄地区子ども安全対策協議会の副会長の荒木でございます。併せてよろしくお願いいたします。

今日、お話し申し上げますのは、活動地域の紹介とそれから団体の概要、活動状況、その成果と課題ということでまいりたいと思います。



活動地域の紹介

富雄地区は、全体で5,400世帯、人口は14,000人、その中でマンション等の集合住宅が約62%です。地区の中心には富雄北小学校がございますが、そこから約400メートル行くと、右側に富雄駅がございます。そして、そこから直線距離で約1キロ先に、平成16年11月17日に起こりました小学校女児誘拐殺害事件の楓ちゃん事件が起こった現場です。学校から1.4キロの場所であったということです。



団体の概要～楓ちゃん事件を通じて

我々は事件の数年前の平成15年ころから富雄北小学校児童の安全対策協議会をいろいろと考えて平成16年に設立したわけですが、これが現在の協議会の母体となっております。

どこでも言われていることですが、地域、学校、保護者が「地域の子どもは地域で守るのだ」という意志の下に活動しております。

平成13年に池田小学校事件がございました。それで、我々富雄として何ができるのか、子どもの学校の安全を守るには何ができるのかということを校長先生と我々がいろんな業務の中で考えました。やはり学校の中の安全のためには犯人がひるむような、そしてまた監視できるような小屋を作ろうではないかということで、この防犯監視所の建設と監視活動を始めたわけです。

学校の正門裏門に2棟建てまして、全体の資金が180万要りました。募金が127万、あと残り50数万円を自治連合会が出したということです。

建てた者が3人おりますが、これは別に専門家ではございません。地域のボランティアです。だから、大工さんにお支払いしたお金は一銭もございません。屋根の上に座っているのは決してさぼっているわけではなくて、この方が本当は大工さんで、自治会長の山本さんという方です。彼の指導で我々も手伝

団体の概要

- 設立
平成16年、小学校1年女児誘拐殺害事件が発生し、前年に設立した富雄北小学校児童安全対策協議会を継承。
- 事業目的
事件後の集団登下校見守り活動の推進母体として、地域、学校、保護者が協力し「地域の子どもは地域で守る」

って建てたということです。

平成 16 年の4月から開始して8月にそれぞれ完成し、これらは奈良市に寄附をしております。2つ建物がありますので、1つはボランティアが交代で監視活動を行い、もう1つはPTAさんが交代で監視活動を行っているわけです。

これが完成してしばらくし、つまり我々は学校の安全をどうするのかということやってまいりました。学校の安全はある程度これでいいなど。よし、今度は学校の外の安全の対策をどう考えようかといったときに、その出端を挫かれたのが楓ちゃん事件であります。同じ年の11月17日に楓ちゃんが誘拐されて、そして殺害され遺体が遺棄された。この遺棄された現場が、今、写真のとおりであります。

これは私の前任の馬場さんという会長、もうお亡くなりになられましたが、我々が本当に地域として悔しかったのは、一人の少女の命すら守れなかったではないか。この思いがあるわけです。

今でも地域ではその思いが、「ああ、本当に守ってあげられなかったな、ごめんね。」という気持ちが活動の原点であり、そして活動のエネルギーとなっているわけです。

そして、事件が起こった直後に、まず子どもを守るためにどうするかということで、集団登下校を地域でやろうではないかと考えました。

当時の保護者の方はちょっと表現が悪いですが、髪振り乱して学校長に詰め寄ったわけです。どうして集団登下校をやってくれなかったの、今までもお願いしたではないかと。富雄北小学校は児童数が当時 944 名おまして、奈良市内では最大の学校で市街地にあります。非常に難しい環境の中で、その当時の会長から、安達さん、とにかく考えてくれということで、集団登下校システムを考えるのは非常に迷いましたが、そんなの断っている暇はありませんので、ここにいる荒木さん、その他みんなの協力を得ながら、現在の集団登下校を考えました。



この写真は現在の姿でございまして、見守りボランティアさんがいますけれども、これが一つの流れではなくてグループに分かれています。団体に番号を付けておまして、この見守りボランティアさんは何番と何番のグループが通過したから、よしこれでもう全部終わり、という確認をしております。

では集団登下校というのは一体何なのだと、何が大事なのだということを私のほうでいろいろ考えた結論が4つの理念です。

一つは子どもの安全、これは当たり前です。この集団登下校という制度に親御さんが子どもを託す。するとその制度がきちっとしていないと、いい加減なシステムでは安心できないわけです。ですから、いか

にこの制度をきちんと、完璧な制度にするかということ。つまり、保護者の信託に応えることが大事なわけです。

それから、当時いろんな集団登下校の制度を自治会で説明したときに、やっぱり問題になったのは、学校の外は当然保護者の責任ではないか、保護者がやるべきではないかと。それは欧米でも、どこでもそうではないかという意見がありました。今、この混乱の中で保護者がやんなさいと言ったって、それは無理だなと。

もう1つ、当時の保護者の、特にお母さん方の就労率が当時の資料では大体 41%あります。そのほかに、例えば、両親を見ているとか、あるいは小学生以外の乳飲み子を抱えているとか、こんなお母さんたちに保護者責任だから行きなさいと、あんた方が守って送り迎えやりなさいと言ったって、それは現実問題としては無理であります。

そして、女性の就労機会を奪うことになります。パートであれ何であれ、仕事を辞めなければいけないということになる。それはいけないということで、これは地域が主導してやるのだと。地域がまずやるのだということをはっきりと明示したわけです。

そういうことから、もうこれは地域の子育て支援であるという考え方をきちっと打ち出したわけです。

ここに書いておりませんが、サザエさん家族というのがございます。波平さん、フネさんがいて、サザエさんがいて、マスオさんがいて、下にタラちゃんがいる、ワカメちゃんがいる。この3世代を地域に例えると、おじいちゃん、おばあちゃんは地域だと。働いている中間は保護者、そして小学生がいる。そうすると当然、中間のサザエさん、マスオさんが働いているわけですから、おじいちゃん、おばあちゃんが孫の面倒を見るのは当たり前ではないかと。それを地域に置き換えたわけです。

ですから、これは地域の子育て支援なのだ。そして、もうちょっと良い格好をすると、それは地域ができる少子化対策ではないかと考えたわけです。

それから、当時はやっぱり学校がパニックに陥っていましたので、「学校の外は地域が守るから、先生、一つ教育に専念してください。」と、学校にはっきりとメッセージを出すということです。

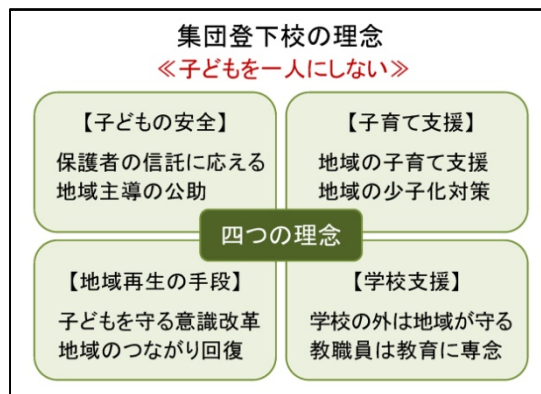
そして、こういった活動が地域再生への手段であり、集団登下校をやるのは目的ではなくて、それは手段としてやはり地域のつながりだとか、子どもを守る意識の改革だとか、安全・安心なまちづくりに、これが本来の目的であるというふう考えたわけです。

集団登下校システム

簡単に集団登下校システムを説明します。

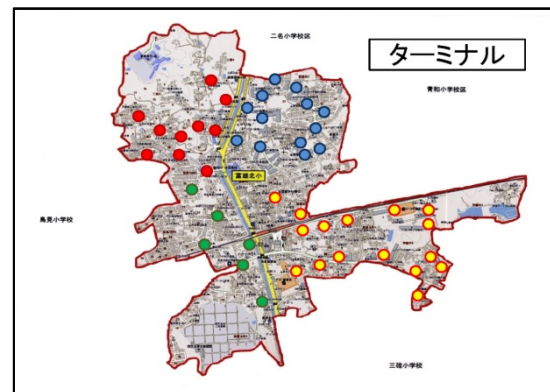
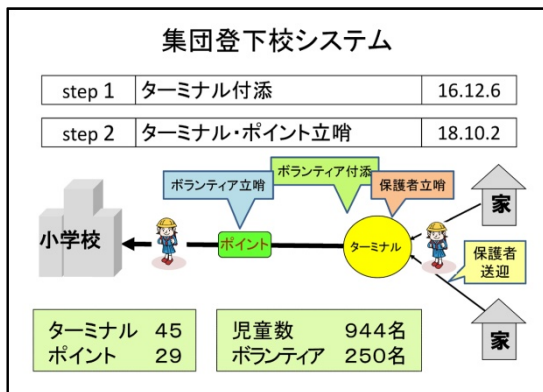
各家庭からターミナルに集まります。そして、学校に行くまでの間、保護者が小学生をターミナルに送迎いたします。そして、ボランティアさんが付き添って学校まで子どもを連れていきます。帰りはこの逆です。それを約2年後に立哨方式にしたのです。付き添いでは大変なのです。一番遠い所から 1.5 キロぐらいありますから。

そして、それぞれに立哨ポイントを作りまして、今度は付き添いではなくて、登下校の安全を確認するということです。こういうふうの一つ省力化というか負担軽減を図りながら、安全性はきちっと守ると考え

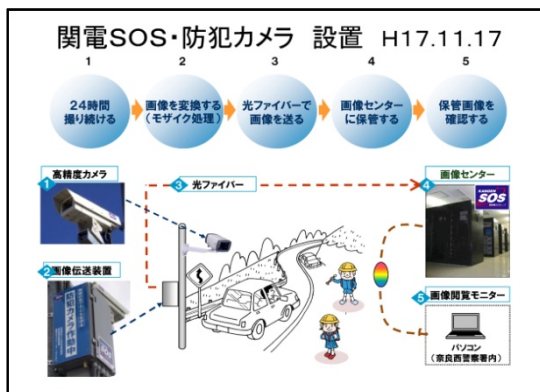


ています。

ターミナルというのは4ブロックに分かれております。



防犯カメラの運用



それから、防犯カメラについてですが、これは奈良市と奈良西警察署と関西電力の関電 SOS さんのご協力を得ました。私どもの防犯カメラを簡単にご説明申し上げます。

カメラは 24 時間撮り続ける高精度のカメラです。夜間もちろんです。それを画像伝送装置というボックスに送信するわけですが、それは冷房完備の装置です。

真夏にどんなに暑くても大丈夫です。そこから光ファイバーケーブルで関電 SOS の大阪のセンターに送ります。画像を閲覧するときは奈良西警察署から私に、いついつ何時何分から何時何分の画像を見たい、「許可してほしい。」ということで私が O.K を出しますと、関電 SOS からその都度、ID とパスワードを連絡して、奈良西警察署だけで見。

したがいまして、完全にプライバシーが確保され、現実、私は1回も動いている画像を見たことがありません。

活動の成果と課題

活動の成果と課題ですが、この中で一つだけお話しておきたいと思っておりますのは、子どもの成長ということです。この集団登下校活動を通じて、安心・安全は当然ですが、3年前に6年生のある子どもが私に手紙をくれました。

「僕は卒業します。しかし、5年生以下、まだまだ集団登下校に慣れていないし、リーダーとしても無理だし、だから是非子どもたちを教えてやってくれ、そして1年生までいるから守ってやってくれ、よろしく願います。」というはがきを僕にくれました。

これはまさにここに書いてありますように、そういう自分よりも下の者を思いやる、他人を思いやる、そういう気持ちを持ってくれた。そして、責任感がある。こういうことを集団登下校という集団行動で初めて学べたことだと考えております。

ボランティアさんも、いろいろと住民理解を深めたということです。今後の課題はやはりボランティアの確保、その他、持続性を高めるということだろうと思います。

ご清聴ありがとうございました。(拍手)

活動の成果と課題	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ▶子ども・地域への関心・愛着心が高揚 ▶ボランティア活動への住民理解 ▶犯罪抑止面の効果
	<ul style="list-style-type: none"> ▶子どもの成長 卒業生から届いた1枚の手紙 ～ 集団行動で学ぶ ～ ・思いやり ・責任感 ・忍耐
課題	<ul style="list-style-type: none"> ▶ボランティアの確保 ▶活動の持続可能な体制再構築 ▶将来の地域を支える人材育成

質疑応答

●質問 皆さんがやっておられる関電 SOS は、どのぐらいの規模でなされて、当初、設備投資的に幾らお金が掛かって、維持管理費に幾らお金を費やしているかをお聞かせください。

○回答 4カ所に設置しております。そして、1カ所で両面を映しますので計8台の防犯カメラです。当初の経費は 560 万円。これはモデル地区にしたいという関電 SOS さんからの提案によりご負担いただきました。

それから、年間維持費は当初 140 万、現在はもう少し下がっております。これは画像の保存期間、あるいはメンテナンス等々の問題がありまして、少し下げております。これは奈良市に負担していただいております。

●質問 大変工夫を凝らした見守り活動を展開し、活動しておられる方、登録しておられる方が 200 名を超えているということでもあります。大変痛ましい事件が契機となったものではあるのですが、これらのパトロール活動、見守り活動を8年という長きにわたって続けていく熱意、秘訣といったものはどういったものなのでしょう。

○回答 正直申し上げまして、妙手、妙案はございません。私自身がやってきたこと、あるいは考えていることを申しますと、1つは初心というものがどうもやっぱり忘れ去られてしまう。ですから、初心を共有する。そして、富雄では、現実には世帯が増え人口が増えていますので、事件後に転入してきた、例えば小学生のお子さんを抱えたお母さん方が「えっ、ここがあの楓ちゃん事件の場所ですか。」と、初心に戻りなさいと言ったって初心を知らない人が来ているわけですから。これをどう共有していくのか。ここが難しい点です。

そのためには、やはり広報の問題、それから私どもは平成 22 年の1月、つまり楓ちゃん事件から5年たったときにフォーラムを行いました。そこで、やはり初心を共有し、そして後から来た人に初心を持ってもらって、それを未来につなげていこうではないか。

やはり1つは意識の問題、もう1つは負担軽減をする。しかし、安全性は劣化させてはいけません。レベルを下げてはいけません。けれども負担軽減はやっぱり非常に大事だと。

それから、最後に、私の口から言うのもおかしいのですが、やっぱりリーダーの強い意志、これを常に明確に情報発信するということでもあります。